

銅像建立の理由は

須賀川から帰った私は、いちおうこれまでわかったことをまとめてみた。(下の「桜井弥六伝」参考)

一、桜井弥六の業績と銅像が建てられた理由

これが最大の疑問である。武藤さんがまとめてくれたプリンも明らかにしていない。まず、業績であるが、弥六は明治五年須賀川病院開設以来昭和四年に死ぬまで病院に賭(まかない)夫として奉職していた。実に五十八年間である。さらに、市民に多くの善行を施こしたらしい。私の知っている業績はこれだけである。

建てられた理由は、この業績の他に九十一歳の高齢もあったであろう。現代と違い平均寿命のはるかに短かった時代である。しかし銅像建立の理由としてはまだ弱い。私は銅像の発起人名簿を見た。ここに載っている人は当時の須賀川市の有力者ばかりである。「この須賀川市の実力者、大物ばかりですよ」と岡崎さんは言っていた。現在の市長の親の名前もある。近郷の町村長、県議員も。

これだけの人が名を連ねた理由を桜井弥六その人だけに求め

結論

るとすれば、弥六は当時の須賀川市においては名実ともに大人物である。が、彼は一市民であった。

ここで、後藤新平が浮かび上ってくる。銅像建立の背景には後藤がいたのではない。後藤がどう関係したのかはわからない。ほとんど関係はなかったかもしれない。しかし、もし桜井弥六が後藤新平と何のかわりもない人であったら、この銅像が建てられたかどうかは疑問であるような気がする。

さらに、弥六の生涯が当時の滅私奉公や忠君思想に合致していたこともあるかと思う。

これ以上はわからない。また須賀川市の方から報告があれば研究してみたいと思う。

それにしても、わずか半世紀の年月は、銅像建立の理由さえも時間が流れて去るのであるうか。



▲等身大の石像。だれが作ったかは不明。台座は高さ約二メートルのりっぱなもの。

石像に刻まれた碑文

翁は桜井伝兵衛氏の長子、天保九年新潟県中蒲原郡曹木村金巻に生れ喜永三年父母に随ひて当須賀川に移住す明治五年当地に県立医学堂の設立せらる、やその附属病院を経て現時の公立岩瀬病院院部として奉仕すること実に五十有八年而してこの間救回当局より表彰せらるの光栄を膺り翁年少にして有らゆる世の辛酸をなめ一家を興すに至りて然もその元を忘れず敬神博愛の念厚く快気よく人を助けて尙もその功を誇らず老耄益々雙鍊業務に精励したりしが昭和四年十二月十一日病を得て逝く時に年九十二

桜井弥六と後藤新平

後藤新平は医学堂の学生であったころ、桜井弥六が親身になって世話をしてくれたことに深く思慕を感じていたという。後藤は七十二歳で他界したが、その年は、奇しくも弥六と同じ昭和四年であった。

さて、後藤と弥六の親交を伝えるエピソードを拾ってみよう。須賀川の郷土史家武藤昌義さんが調べたものである。

一、後藤が東北地方に出張の時

二、後藤が西白河町に赴いた時

三、後藤が新築した家に弥六を招きエレベーターの初乗りをさせたという。

四、後藤は弥六に自身が大事にしていた紋付を弥六に贈ったという。

親交

特集を終えて

桜井弥六の石像発見は宮田栄門さんの郷土誌にける熱意と努力の賜物といえましょう。不謹慎ですが、桜井岩修さんの死が2ヶ月早かったら、また宮田さんが訪ねられなかったら、この発見はありませんでした。

ですから一刻も早く、町の歴史を現在にとどめなければなりません。来号から、宮田さんをお願いして、「黒埼町の今昔」(仮題)を執筆していただくことになりました。どうぞご期待ください。

さて、近年「コミュニティ」という言葉をよく耳にします。地域社会と訳せます。古い血縁や地縁に支えられた部落や地域社会は崩壊しつつあります。特に数カ村の合併(明治34年)によって、近年は新潟市のベッドタウンとして人口急増の黒埼町を、時代に対応した新しい町に変革していく必要があるように感じます。これがコミュニティです。

そして、コミュニティ形成のためにはスポーツや文化が大事です。中でも、町の「共通の体験」ともいえるべき郷土史がその一翼をになわなければならないでしょう。この意味からも、今回の発見は重要であったと思います。

第一回臨時議会

助役選任案など二件を可決

本年第一回目の臨時議会が、五月十九日開かれ、助役の選任案など二件が上程され原案どおり可決されました。

議案の要旨は次のとおりです。

議案第三十六号

専決処分承認を求めることについて、次の議案を専決処分したので、議会の承認を求めらる。

●黒埼町税条例の一部を改正

●黒埼町国民健康保険条例の一部を改正

●昭和五十六年度一般会計補正予算(第八回)

●昭和五十六年度国民健康保険特別会計補正予算(第四回)

議案第三十七号

助役の選任について

●次の人を助役に選任したいので議会の同意を求めらるもの。

住所 黒埼町大字木場一八八 四番地

氏名 大谷要治(59)

*この議案可決により、昨年八月一日から空席であった本町助役に大谷要治氏が就任することになります。

*専決処分とは、議会の議決を要する案件について議案を招集する時間がないなどの場合、その補充的手段として、町長が処分し、次の議会で報告し承認を求めらるものです。

助役就任にあたって

略歴

大正十二年一月五日生

昭和十七年 木場青年学校 本科卒

同十九年 研究科中退

同二十二年 農地委員会 雇員

同三十七年 経済課長をふり出し七課の課長を

兼任、五十四年 総務課長

役場在職期間三十二年

六カ月



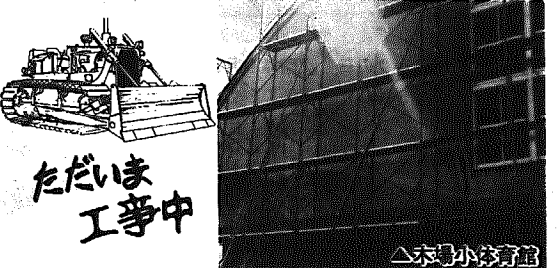
このたび、はからずも不肖私ごとときが助役として、町長のご推せんを頂き、五月十九日開催の町議会臨時会において、議

大谷 要治

員各位のご厚情によりまして、助役選任のご同意を賜わり、六月一日から就任することになりました。

私は昭和二十二年十一月役場職員として採用されその後農協職員として二年間転出したしましたが、昭和二十六年九月再度職員として奉職してから三十年余大過なく今日に至りました。

この間歴代の理事者並びに先



ただいま工事中

(5月11・14日入札)

工 事 名	工事費	完工予定日	工事業者
町道砂原3号線舗装工事	90	6月12日	㈱福田組
町道鳥原8号線舗装工事	120	6月12日	㈱日本舗装
農村総合整備モデル事業舗装工事(木場地内)	145	6月17日	㈱福田組
河川敷公園工事(善久地内)	2,250	10月10日	㈱榎谷組
木場小学校校便所、体育館などの壁改修工事	1,435	6月11日	山際産業

輩諸氏及び同僚、住民各位より公私ともにご指導を賜りまして誠にありがとうございます。臨時申上げます。

ご案内のごとく地方行政は多難をきわめております。臨時行政調査会の行政改革に関する答申にもある如く、地方とも行政の効率化と行政経費の節減が天命とされております。また我が黒埼町においても都市化の伸展と共に行政需要が増大するなかでこれの対応が迫られております。

このような時期に新しい職務に就任いたし、その責務の重大さを痛感し身のひきしまる思いでいっっぱいでありませう。

もとより私は浅学非才の身でありますので更に研鑽を重ねると共に、その職務に当りましては、町長の信条としての「福祉の行き届いた町」「健康で文化的な活力ある明るい豊かな町」建設の実現、の意を体しまして、町勢伸展のため、補佐役として、その任を全うすべく職務に精励いたす所存であります。

今後とも町民各位のご支援とご鞭撻を心からお願ひ申し上げます。就任のあいさつとい